

## 神奈川県小田原市で捕獲されたヒメシロハラ ミズナギドリについて

中村一恵・室伏友三

A New Record of Stejneger's Petrel *Pterodroma longirostris*  
from Kanagawa, Japan

Kazue NAKAMURA and Yuzo MUROFUSHI

1982年9月13日から14日にかけて、3羽のシロハラミズナギドリ類が、横浜市戸塚区戸塚町、秦野市北秦野、小田原市高田の3ヶ所で捕獲された。いずれもこの年の台風18号に運ばれて陸地に漂着したものである。横浜市と秦野市で保護されたのはシロハラミズナギドリ *Pterodroma hypoleuca* であったが、小田原市で保護された1羽は、他の *cooki* 群数種と比較検討した結果、シロハラミズナギドリ *Pterodroma* (*Cookilaria*) *longirostris* であることがわかった。

この鳥は9月14日夜、小田原市高田の路上で拾われその後小田原動物園で約2週間飼育された後、10月10日に野毛山動物園へ生きたまま移管されたが、この間筆者らはこの個体を詳しく観察する機会に恵れた。これまで日本における本種の生鳥についての観察記録はまったくなく、*Cookilaria* 亜属の分類にとくに重要である脚および蹼の色に関して混乱が生じている。とくにこれらの点に留意しながら観察の結果を報告する。

報告に先だち、資料の収集および観察の過程で多大な便宜をはかって下さった西湘地区行政センターの藤野幹雄氏、野毛山動物園の大坂豊氏、並びに県自然保護センターの坂本堅五氏に深謝したい。

### 観察結果と考察

*Cookilaria* 亜属の中で *pycrofti* に最も似るが、*pycrofti* では頭上から後頭部にかけて背と同色の淡灰色であるのに対し、本種の頭上から後頭部にかけては灰黒色で背のみ淡灰色である点が異なる。頬は白色で頭部から連なる耳羽の灰黒色と明瞭に界をなし、眼の後方に半楕円形の白色斑となつてのびる(図2)。*pycrofti* では、このような形の白色斑はでないらしい(See FALLA *et al* 1966, Pl. 7)。

尾羽は12枚で、円尾に近い。最外側尾羽の外弁は基部を除き濃淡のない薄墨色。内弁にも羽軸末端に沿って濃淡のない薄墨色の部分があるが、基部に向かって

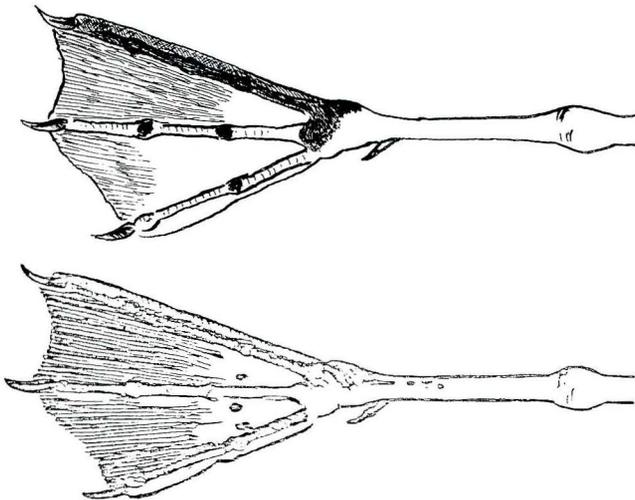


図1 脚および蹼における色彩分布  
上) ヒメシロハラミズナギドリ  
*P. longirostris*  
小田原標本(生鳥)を描く(中村原図)  
下) *P. leucoptera* subsp. (BULL,  
1943)

は白色と薄墨色の斑入りを経て白色に移行している。これに次ぐ外側尾羽では内弁の薄墨色の範囲は一層大きい。*leucoptera* および *cooki* では最外側尾羽の内弁は純白色であり、*longirostris* に酷似する *pycrofti* でも内弁の白色部の広がり *longirostris* より大きく、白色が大部を占める。最外側尾羽の薄墨色の分布にむろん多少の変異はあるが、*leucoptera* より一様に濃い薄墨色であること、*pycrofti* と *cooki* よりは一層濃色であることにより区別される。

脚は外趾を除き趾先まで赤味のある淡青色、外趾は黒褐色で、この斑は中趾基部にまで達している。蹼は外趾、中趾間で約2/3が褐色、中趾、内趾間では約1/2が淡褐色で、その色調は外趾、中趾間よりやや淡い。残りの部分は淡いピンク。中趾に2個、内趾に1個の小黒斑がある。この蹼における色彩分布のちがいににより *leucoptera* と区別される (図1, See FALLA, 1962)。

乾燥すると赤味のある淡青色の部分は退色し、蹼におけるピンクの部分と褐色斑の境も明瞭でなくなり、外趾の黒褐色を除いて脚は趾先まで全体にわたって黄褐色となる。かつて本種の脚および蹼が黄色に描かれ (黒田, 1932), 脚は趾先まで黄色と記載された (黒田, 1965) のは、恐らく乾燥標本に基づくものであり、また、京都産についても脚に黄色味があるので別の種ではないかと検討中である主旨の指摘 (高野, 1980) も同様に乾燥標本をみたことによって生じた誤解であると思う。

外部計測値を同時に捕護されたシロハラミズナギドリとの比較で以下に示す (単位ミリ)。

標本	性	翼長	露出 嘴峰長	跗蹠 長	尾長	体重 (gr)
<i>P. longirostris</i>						
小田原市	♂	203.7	23.2	30.3	92.0	123.5
<i>P. hypoleuca</i>						
秦野市	♂	219.3	24.8	30.3	113.5	130.0
横浜市	♀	213.5	25.6	29.9	122.0	145.0

#### 日本近海における分布について

従来日本産ヒメシロハラミズナギドリの標本としては青森県陸奥 (タイプ標本を含む4点) と京都市 (1点) からの2例のみであった (中村, 1979) が、1981年8月23日から24日にかけて、この年の台風15号の影響を受けて本種と考えられる40数羽の群が宮城から岩手沿岸一帯 (38~39°N) に飛来した。この群の中から5羽捕獲されたが、このうち4羽の標本およびカラー写

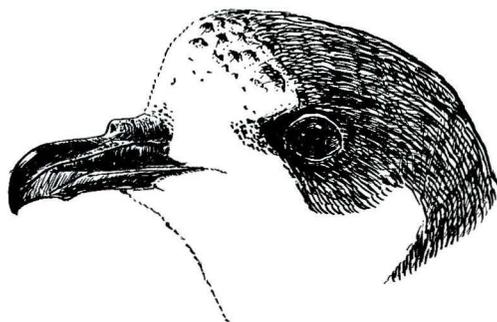


図2 ヒメシロハラミズナギドリの頭部  
小田原標本 (生鳥) を描く (中村原図)

真を精査した結果、すべて本種であった (中村・田中, 1982)。1972年9月に京都市で捕獲された1例も台風による内陸漂着である (中村, 1973) から、青森県陸奥産 (採集年月日不詳) を除けば、これまで日本における本種の標本記録はすべて台風によって陸地に運ばれてきたものである (註-1)。陸奥における捕獲例も陸上における記録であるから、恐らく台風かもしくは台風に匹敵するような暴風により実際の捕獲地 (41°17'N) よりは低緯度の海域から運ばれたものと推定できる。

3羽のシロハラミズナギドリ類がすべて台風18号の上陸経路の東側 (上陸地点は静岡県御前崎) の地点に落されているのは、先きに中村 (1982) がセグロアジサシ *Sterna fuscata* を例に論議した移動台風の風速分布の特性に関係した現象と同じである。

ヒメシロハラミズナギドリは南米チリ沖のマスフェラ島 (33°45' S, 80°40' W) に繁殖し (FALLA, 1942), 北太平洋へ渡るが、恐らく北西北太平洋では極前線付近 (40°N-42°N) を北限として分布し、以南の日本付近亜熱帯外洋域においては従来言われているほど本種はまれではないと考えられる (中村・田中, 1982)。

#### 文 献

- BULL, P. C. 1943 The occurrence of *Pterodroma leucoptera* in New Zealand. *Emu*, **43** 145-152.
- FALLA, R. A. 1942 Review of the smaller Pacific forms of *Pterodroma* and *Cookilaria*. *Emu*, **42** 111-118.
- FALLA, R. A. 1962 New Zealand records of *Pterodroma longirostris* (Stejneger) and a new record of *Pterodroma leucoptera* (Gould). *Notornis*, **9** 275-277.

- FALLA, R. A., SIBSON, R. B. and TURBOTT, E. G. 1966  
A field guide to the birds of New Zealand. Collins.
- 黒田長禮 1932 ヒメシロハラミズナギドリ.  
鳥 33/34, 口絵図版
- 黒田長久 1965 ヒメシロハラミズナギドリ. 新日本  
動物図鑑(下) p. 590. 北隆館
- 中村一恵 1973 内陸に迷行した海鳥2種について.  
神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (6)  
55-59.
- 中村一恵 1979 日本近海産ヒメシロハラミズナギド  
リ属の分類と生態. 海洋と生物, (1) 24-31.
- 中村一恵 1982 日本のセグロアジサシ. 神奈川県立  
博物館研究報告(自然科学), (13) 37-50.
- 中村一恵・田中完一 1982 日本産ヒメシロハラミズ  
ナギドリの新標本. 57年度日本鳥学大会講  
演要旨
- 高野伸二 1980 野鳥識別ハンドブック. 日本野鳥の  
会
- (註-1) この他, 1982年8月2日に栃木県塩谷郡氏家  
町(標識放鳥)と東京都八王子市打越町(死亡)で本  
種各1羽が採集された(藤村仁, 未発表)が, いずれ  
もこの年の台風10号の影響を直接受けた内陸落下例で  
ある。  
(中村一恵: 神奈川県立博物館, 室伏友三: 小田原市  
立千代中学校)